

韓国の初等英語に関する調査

—日本の小学校英語カリキュラム開発への示唆を探る—

金澤 延美 伊東 弥香
(立教大学)

A Survey on Elementary School English in Korea :
Some Insights into Elementary School English Curriculum Development in Japan

Nobumi KANAZAWA Mika ITO
(Rikkyo University)

1. はじめに

現在、日本における公立小学校での英語教育は「国際理解教育」という枠組みの中で「英語活動」という形で行われているが、英語関連の教育特区認定校、あるいは研究指定校として、教科としての「英語」に取り組む小学校も出てきている。2006年3月には中央審議会・外国語専門部会による小学校英語の必修化・教科化に関するまとめも発表された。しかし、現実においては、小学校での取り組み方は一様ではなく、小学校段階での英語教育の目的・目標や、指導内容・方法も明文化されていない。文部科学省による英語活動の指導の基本は、音声中心となっており（文部科学省，2001）、多くの学校では歌やゲーム中心の音声重視の活動が行われているが、中・高学年、あるいは小学校の6年間を通してこのような内容であることに対する懸念の声も挙がっている。

筆者は、今後の必修化・教科化を視野に入れ、一貫性英語教育を目指すことを前提に小学校英語カリキュラム開発のための研究を進めているが（金澤・伊東，2006ほか）、指導内容・方法を検討するためには、子どもの興味・意欲・態度（BICS）および言語能力（CALP）の育成のための長期展望が不可欠であると感じている。また、米国と英国の英語プログラムの視察調査を行った結果、従来のような「文字→音」ではなく、英語の音に慣れ親しんだ小学校の段階で「音声→文字」の順序で指導すること

により、音声指導に段階的・発展的な要素を取り入れることが重要であるという見解に至った。とくに、日本語とは異なる英語特有の「音（音素）」、さらに、「音声変化」「プロソディ」を理解できるように、「Phonemic Awareness（音素への気づき）育成」に焦点をあてるのが小学校英語と中学校英語の「連携」の鍵だと考えている。

2. 研究の目的と背景

本研究は、韓国の英語教育を概観し、初等英語プログラムの調査を進めることによって、日本の小学校英語のカリキュラム開発への応用の可能性を検討するものである。韓国は公立校にすでに初等英語を導入しており、先行実施例として日本が学ぶ点が多いと思われる（伊東，2002a；2002b；2002c；木村，2001a；2001b；2001c；Kwon，1997；1998；2001；ほか）。本論では、以下の4点を中心に報告を行う。

- (1) 韓国の教育改革と初等英語教育
- (2) 韓国の初等英語の視察調査
- (3) 韓国の英語プログラムの指導内容・方法
- (4) 考察とまとめ

2.1. 韓国の教育改革

韓国ではこれまで、南北の民族統一に向けたナショナリズム色の強い教育を続けてきたが、1990年頃からグローバル化に向け大きく動き出し、1990年代

半ば以降、教育制度は急展開を見せた。従来からの「教育部」という名称を2001年度から「教育人的資源部 (The Ministry of Education)」と改めたことにも象徴されるように、韓国では教育を「人的資源 (The Ministry of Education and Human Resources Development)」と捉えた政策に転換しようとしてきている。「教育基本法」(1997年12月制定、1998年3月1日施行)と「初等・中等教育法」(1999年8月制定、2000年3月1日施行)の成立によって新しい時代を迎えたと考えられる。つまり、1995年に「国民教育憲章」(1968年12月、朴正熙大統領によって宣布)、1997年12月に「教育法」(1949年12月制定、第22次改正1977年12月)が廃止されたことによって、1つの時代が終りを告げたのである。

制度の改革だけでなく、教育内容の改革も行われた。1997年12月の「第7次教育課程」の告示である。「第7次教育課程」は「韓国が国際市場競争に生き残るための戦略という性格を帯びている」(斎藤, 2003: 15)。「つまり韓国は、初等教育の普及に重点をおいてきた教育政策から、技術開発力の強化をめざした高等教育の質の向上へと教育政策の転換をはかっているのである」(斎藤, 2003: 20)。

「教育課程」は日本の「学習指導要領」にあたるものであり、「第1次教育課程」(1954年4月公示)から始まり、「第6次教育課程」(1992年6月公示)を経て、「第7次教育課程」は2000年から2004年までの間、初等学校1、2年生から高等学校3年までの学年進行に伴って段階的に導入されている(表1)。

2.2. 第7次教育課程と英語教育

第7次教育課程は、大学教員や研究者から成る KICE (Korea Institute of Curriculum and Evaluation) の研究チームによって作られた。その特徴は、従来、初等学校、中学校、高等学校と学校段階別に区切られてきた教育課程を12年制の連続した教育課程に統合し、それをさらに最初の10年間(1年生-10年生)の「国民共通基本教育課程 (the National Common Basic Curriculum)」とその後2年間(11年生、12年生)の「選択中心教育課程 (the High School Elective Curriculum)」に分けた点である。また、「個人の学力差を考慮する」ために「水準別教育課程 (Level-Sensitive)」の概念を取り入れている。

このような第7次教育課程のもと、英語は初等学校3年生からの10年間となっており、国民共通基本教育課程では必修科目、高校選択中心教育課程では選択科目である。韓国の初等英語教育は、15年間の準備期間を経て、1997年3月から教科として初等学校3年生から学年進行で段階的に導入された。2000年度には6年生までの全4学年が英語の授業を受けるに至った(表2)。

第7次教育課程では、前教育課程において領域的に重複のあった初等英語教育と中等英語教育を整理し、初等学校から高等学校までの10年間の英語教育に一貫性を持たせた。また、教育内容を精選し、旧課程から30%削減した結果、初等学校の英語授業は週2時間から週1時間に削減されることとなり、教科書も民間14種類から教育部編集の国定教科書1種類となり、ページ数も減少した(3年生91ページ、4年生97ページ)。各レベルで教える基本語彙数に

表1 第7次教育課程への移行年度

学校区分	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
初等学校	基礎研究の 実施、改正 案研究開発	公示 (12.30)			1、2年生	3、4年生	5、6年生		
中学校						1年生	2年生	3年生	
高等学校								1年生	2年生

斎藤 (2003: 23)

表2 第7次教育課程：第3学年からの英語 (Kwon, 1997)

Years	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Hours/Wk	1	1	2	2	4	4	4	4	(electives)	
Types	Expansion & Makeup (深化 補充型)				8 Stages (2 stages x 4 yrs) (段階型)					

については、初等学校で450単語、10年生終了時まで
にさらに1,050単語である。12年生までに教える基
本語彙数は3,000単語となっている。

なお、2000年4月には、「英語授業活性化方策」
を発表し、英語だけで進める授業を義務づけ、伝達
能力重視の英語教育を中学校以上に推進する方針を
示している（2001年は中1の授業に導入、2002学
年度は中2と高1、2003学年度は中3と高2、2004学
年度は高3と、段階的に拡大を行った）。

2.3. 初等英語教育

韓国における英語教育は、「英語の国際性、韓国
の国際競争力および今後の韓国人の質の高い文化と
生活を享受することを考慮すると、韓国人が英語を
習得することが必須条件であり、英語を習得するに
は初等学校の児童が最適であるとの判断による」
（河合、2004：13）ものと考えられる。初等英語教
育の目標は、①日常英語を理解し使えるようになる
ための基礎コミュニケーション能力を養成する、②
外国文化の良さを学びながら、自国文化をさらに理
解するための基本を作り外国人に広める、と考えら
れている（Chun, 2000）。また、特徴としては、①
英語をコミュニケーションの手段として捉えている、
②教育課程の改訂とともに小学校英語の導入を段階
的に行ってきた、③初等学校の教員を指導者の中心
と考える、④教員養成を政府主導で計画的に進めそ
の成果を現場に還元している、という4点が挙げら
れる。

2.4. 初等英語の効果

韓国の教育人事的資源部は、外国語の開始時期に
ついて、現在は3学年から開始している初等学校の
外国語（英語）を2008年を目標に1学年に引き下
げることを検討している。2006年9月から2007年ま
での1年半、各道および大都市で指定実験校を2、3
校設けて1学年から英語を教え、これら指定校での
実験結果をもとに、2008年から全国展開を予定し
ているとのことである（浅岡・伊東、2006）。

このような韓国の教育人事的資源部の決断の背景に
は、初等学校段階で英語を導入する効果が何らかの
形で証明されたのではないかと考えられる。その一
例として、Kwon et. al. (2006) は示唆的と言える
だろう。本研究では、2003年と2004年に、(1)韓国、

中国、日本の高校生の英語力の比較調査、(2)韓国の
初等学校英語の効果についての調査を行った。被験
者は、高校生13,742名（2003年）、高校生12,836名
（2004年）であり、GTEC（Global Test of English
Communication）とアンケートを用いて、それぞ
れの英語力と英語学習について調べた。2004年の被
験者については、2003年と同じ高校のほか、韓国
の中規模都市の高校生、および日本のスーパー・イン
グリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（Super
English Language High School, SELHi）を加えて
調査を行った。また、初等学校英語の効果について
は、1997年度以降に英語授業を受けた生徒
（ELES）と受けなかった生徒（non-ELES）を比
較している。以下に、韓国の高校生に関する2つの
調査結果をまとめる。

(1) 英語力（GTECスコア）の比較調査

① 2003年……総合2位（中国1位、日本3位）、
リーディング1位、リスニング1位、ライテ
ィング3位（リーディングとリスニングに比
べてライティング・スコアは極めて低い）。

② 2004年……2003年の参加校のスコア順位は変
わらず。

<考察> 韓国の高校生は、中国と日本の高校生よ
りもリスニングとリーディングにおいて優れ
ていたが、ライティングでは及ばなかった。

(2) 韓国の初等学校英語の効果についての調査（英 語力の比較）^{註1)}

① 2003年の10年生（non-ELES）と2004年の10
年生（ELES）……2004年10年生の方が39.9
ポイント上昇（リスニング+18.9、ライテ
ィング+11.2、リーディング+9.8）（表3）。

② 2004年の10年生（ELES）と11年生（non -
ELES）……10年生の方が12.7ポイント高。

<考察> 初等学校英語の効果が見られた。この効
果は、リスニングにおいて顕著であり、ライ
ティングとリーディングが後に続いている。
さらに、初等学校における1年の英語学習が、
高校における1年間の欠如を相殺する形にな
っている。

3. 韓国の初等英語の視察調査

韓国で1997年に始まった初等英語が、児童のその
後の英語学習に効果をもたらしているという上記調

表3 GTEC Scores of the 10th Graders in 2003 and 2004 (Repeating Schools) Kwon et. al. (2006)

	10th Graders in 2003 (Non-ELES)			10th Graders in 2004 (ELES)			Diff.	p*
	Mean	SD	n	Mean	SD	n		
R	185.3	49.8	2210	195.1	44.0	2115	+9.8	0.000
L	168.5	45.3	2200	187.4	48.5	2115	+18.9	0.000
W	54.8	38.2	2214	66.0	30.1	2115	+11.2	0.000
T	408.6	119.4	2200	448.5	110.1	2115	+39.9	0.000

査結果は非常に興味深いものであり、日本の小学校英語の在り方を検討する上で、韓国の指導内容や指導方法について学ぶことは意義のあるものだと考えられる。そこで、筆者は2006年9月、韓国・ソウル市を訪問し、韓国の初等英語の現状について調査を行った。とくに今回の視察では、韓国の初等英語の関係者からの聞き取り調査を行うとともに、教材を入手し、音声と文字の指導について調べることを目的とした。また、民間の英語プログラムでの指導方法や内容についても情報入手を試みることにした。

3.1. 視察調査の概略

視察調査の訪問目的、訪問期間、訪問者、訪問先の概要は以下のとおりである(表4)。

3.2. 民間英語教育機関の訪問

民間英語教育機関として、E* PUBLIC Companyを訪問した。訪問先の相手は、SK Liu氏(社長兼CEO)、Jung-Sook Kim氏(Director, The LAB)である。訪問先に選んだ理由は、同社が長年、韓国の英語教育に民間の立場から様々な形で貢献してきた経験を通して、韓国の初等英語の現状を知ることが有意義であると判断したからである。

韓国では、民間での英語熱が非常に高く、民間塾に通わせる、家庭教師を雇う、教材を購入するなど、各家庭における教育費が家計を圧迫していることが社会問題になってきた。韓国政府の「使える英語」への取り組みと平行して、韓国の人達の英語教育への思いはますます熱くなり、ついに韓国政府は、公

表4 韓国・ソウル市の視察調査

1	訪問目的	韓国における初等英語の現状調査 (1) 民間英語教育機関の視察訪問(聞き取り調査および関連資料収集) (2) 民間英語塾の視察訪問(授業見学) (3) 英語教育関係者との面談(聞き取り調査) (4) 初等英語に関する文献や教材の収集		
2	訪問期間	2006年9月11日(火)~9月15日(金)		
3	訪問者	金澤延美・伊東弥香		
4	訪問先	名称	訪問日	備考
		E* PUBLIC Company ^(注2) (1) President SK Liu (2) Ms. Jung-Sook Kim (The LAB)	9月12日(火)	民間英語教育機関
		Trinity English Academy ^(注3) (1) Ms. Jay Kang (2) Ms. Jung-Sook Kim (The LAB)	9月13日(水)	民間英語塾
		Seoul Metropolitan City Board of Education (1) Mrs. Jeom-Ok Kim (Elementary Education) Handuck Development Co. Ltd. (2) Ms. Elaine Shin (R & D) E* Public Company (3) Ms. Jung-Sook Kim (The LAB)	9月13日(水)	英語教育関係者
		Seoul National University (1) Dr. Oryang Kwon (Department of English)	9月14日(木)	英語教育関係者

立校で初等英語が始まった1997年、3年生対象の民間の英語クラスを禁止するという法令を出したほどである。しかし、実際には多くの3年生が従来どおり塾や英会話に通っていた(伊東, 2002a)。言い換えれば、民間の英語教育機関は常に公教育の動向を調査し、観察しながら、保護者のニーズを満たすために、一步も二歩も先に行くようなビジネス展開を余儀なくされていると考えられる。

E* PUBLIC Company は、1955年に Young-kuk Liu 氏によって出版社 Panmun Book Company Ltd. として設立された。2005年に創立50周年を迎えるにあたり、3代目社長兼 CEO の SK Liu 氏のもと(1999年就任)、E* PUBLIC Company として新たなスタートを切り、幅広いビジネスを展開している。新社名には、「“English, Education, Publication and e-learning”を通して、世界の人々に知識と価値あるコンテンツを提供する」という思いが込められている。

多岐に渡る E* PUBLIC のビジネスにおいて、出版業務の2本柱を成すのは ELT 書籍と、医療書籍・ジャーナルの販売である。ELT 書籍については、韓国で唯一の Oxford University Press 販売代理店となっている。また、韓国の教育者のために、Oxford University の言語学関連書籍 (Primary Resource Books for Teachers など) の韓国語版も販売している。これらの ELT 書籍は、English+ (English plus) (サイバーモール1、直営店4、フランチャイズ店9) で購入することができる。

そのほか、E* PUBLIC の主な系列会社には、Language World (教育関連書籍の企画、輸入、販売)、Cukiz (子ども用教育玩具と衣類の輸入、販売)、Panmun Academic Services (韓国研究に関する書籍の輸出)、Shin Young Media Service, Inc. (Harlequin Romance シリーズ韓国語版の出版) などがある。

今回の視察調査において、事前から色々なアレンジを引き受けてくれた Jung-Sook Kim 氏は、E* PUBLIC の The LAB Education Research Center のディレクターである。The LAB は、2004年に E* PUBLIC のリサーチ部門として設立され、教員支援、教員養成、カリキュラム開発、教材開発などを手がけている。また、保護者への英語教材の指導法セミナーなども提供している。このような The

LAB の実践は、Trinity Education の設立という形に発展し(2006年2月)、Trinity English Academy (Mok-dong 校、Dae-chi 校)において、英語クラスが行われることになった。Trinity English Academy では現在、初等学校1年生以上が学んでいるが、政府が2008年度より公立校で1年生から英語導入を計画中であることに対し、SK Liu 氏は幼稚園児用クラスも開設する予定であると語っていた。

3.3. 民間英語塾の訪問

前述のとおり、韓国における民間教育は過熱の一途を辿っているようである。民間塾での英語プログラムを学ぶことは、公教育での初等英語の未来像を知る一助となるかもしれない。そのような考えのもと、今回の視察調査では、Trinity English Academy (Mok-dong 校) の授業見学を行った。訪問先の相手は、ディレクターの Jay Kang 氏である。Jung-Sook Kim 氏も同行してくれた(同校の英語プログラムについては、次項を参照のこと)。

3.4. 英語教育関係者との面談

今回の視察調査では、韓国の初等教育および英語教育の専門家との面談の機会に恵まれた。Jeom-Ok Kim 氏と、Oryang Kwon 氏である。さらに、Jeom-Ok Kim 氏と一緒に仕事をした経験を持つ Elaine Shin 氏とも知り合うことができた。同氏は、E* PUBLIC の Jung-Sook Kim 氏とも懇意の仲である。各氏のプロフィールは以下のとおりである。

- (1) Jeom-Ok Kim (金点玉) 氏……Director of elementary education at Dongbu District Office of Education in Seoul (ソウル特別市東部教育委員会・初等教育課長)。Jeom-Ok Kim 氏は、長い間初等学校教員として教壇に立ち、担任教員として英語を教えた経験を持つ。副校長の職を経て、1999年にソウル特別市教育委員会スーパーバイザーに就任、英語プログラムの企画や運営に携わる。その後、2005年3月にソウル市江南区の Daemo Elementary School 校長に就任。2006年9月より現職。
- (2) Oryang Kwon (権五良) 氏……Professor at Department of English Education, Seoul National University, (国立ソウル大学校師範

大学・英語教育科、教授)、President of KELTA (韓国英語評価学会会長)。英語教育学博士。韓国の英語教育界のリーダー的存在で、著書、論文、学会発表多数。

- (3) Elaine Shin 氏……R & D Executive Director at Handuck Development Co. Ltd.。米国ハワイでの教員経験を持つ。現在は、一般企業の R & D 部門で活躍し、Jeom-Ok Kim 氏が Daemo Elementary School 校長時代に手がけた課外英語プログラムの企画・運営を担当。

3.5. 考察

民間英語教育機関への訪問、民間塾への訪問、さらに英語教育関係者との面談を通して、筆者は韓国の初等英語について以下のような知見を得た。

- (1) 公立校では、担任を中心とした授業を行っている。
- (2) 1997年の導入から10年目を迎え、政府は2008年から開始学年を1年生とする計画を立てている。
- (3) 民間の英語教育は非常に盛んであり、公立校での実践に先んじて英語塾でのビジネスが展開されている。
- (4) 公立校では、民間との協力で英語プログラムが進んでいる。経済的な理由で民間塾に通えない児童のために、各自治体が英語プログラムを提供している。その代表例が Deamo Elementary School の課外英語プログラムや、地方自治体による English Village である。

English Village はアメリカ村を想定した大プロジェクトであり、参加者はパスポートを持って、アメリカを訪問する疑似体験をする。Elaine Shin 氏によると、English Village の発案は、Handuck Development 社であったようだが、具現化したのは Gyeonggi Providence (京畿道) 知事の Son Hak Gyu 氏であった。Gyeonggi 地区に Ansan Village を設立したのを皮切りに、現在、国内に数カ所の English Village がある。公共施設のため、補助金額は多く、利用者負担は最低限に抑えられている。

カリキュラムに関しては、Ansan Village は Scholastic Company, Paju Village は Houghton Mifflin Company というように、各 English Village は出版社の協力を得ながら、それぞれのカリ

キュラムを採用している。日常的な活動については、数名のカリキュラム・リサーチャーから成るチームが内容を検討し、独自の活動プランを作成している。参加方法については、オンラインで各学校が生徒の予約をとる。比較的安く英語漬けの経験をすることができるため、時には予約待ちのこともあるようだ。月曜日から金曜日の宿泊参加費用は、だいたい100~150米ドルとのことである。

1年経った現在、外国人講師の維持、補助金の不適切な管理など、諸問題が浮上しており、解決が求められている。English Village の詳細については、プロジェクトが始まってからまだ日が浅いため、成果をはじめ、情報はほとんど公けにはなっていない。

4. 韓国の英語プログラムの指導内容・方法

今回の視察調査では、公立校での初等英語教育の現状を知るために、韓国の英語教育の関係者からの聞き取り調査を行うとともに、教材や、民間の英語プログラムでの指導内容や方法から、韓国における音声と文字の指導について調べることを目的とした。以下に、英語プログラムと、教材に関する調査結果を報告する。

4.1. 民間英語塾のプログラム (Trinity English Academy)

4.1.1. 英語プログラムの基本理念

授業見学を行った Trinity English Academy (Mok-dong 校) の英語プログラムの基本理念は次のようになっている (表5、表6)。

4.1.2. 指導体制

(1) クラスと授業時間

1年生 (5、6歳) でスタートし、週3回 (月、水、金、各授業50分+5分休憩+50分) のレッスンを最低3年間続けることを入塾時に保護者に求めている。しかし、英語以外の学習塾などに通う子どもたちも少なくないため、週2回 (火、木) のコースも設定している。1学期3ヶ月、年間4学期制になっており、夏休み期間は1週間のみである (この間、希望者には朝から晩までの夏期集中コースが行われる)。各クラスの定員は8名で、少人数制である。低学年クラスは下校時間が早いため、3時半から5時半まで、その後、高学年クラスが始まり、授業終

表 5 Trinity English Academy : 英語プログラム 1

内容	Content	Social Studies, Natural Science, History, Geography, Earth Science, Social Issues, Culture
教材	Writing	Personal Narrative, Story Writing, Descriptive Writing, Instructive Writing, Informative Writing, Opinion Writing, Persuasive Writing, Compare and Contrast Writing, Research Report
	Speaking	Daily Conversation, Discussion, Presentation, Speech Class

表 6 Trinity English Academy : 英語プログラム 2

What to Write	How to Think
<input type="radio"/> Background knowledge <input type="radio"/> Content knowledge <input type="radio"/> Theme knowledge	<input type="radio"/> Critical & analytical thinking <input type="radio"/> Information processing
How to Write	Learn to Write
<input type="radio"/> Writing process <input type="radio"/> Writing traits <input type="radio"/> Writing types <input type="radio"/> Writing genres	<input type="radio"/> Phonics <input type="radio"/> Spelling <input type="radio"/> Grammar <input type="radio"/> Punctuation

了は 8 時 10 分または 20 分である。

(2) 指導者

教員歴 3 年以上のネイティブ・スピーカー、あるいはバイリンガルの韓国人講師が英語のみで授業を行っている。英語のネイティブ・スピーカーであれば誰でも良いという発想ではなく、韓国の子どもたちや生活環境など、韓国事情に詳しいことも採用基準に含まれる。保護者の間ではネイティブ・スピーカーを望む声が高いが、経験を積んだバイリンガルの韓国人講師の質の高さを説明し、理解してもらうという。授業が進むにつれ、保護者の理解が得られるとのことである。また、クラスはレベル分けされているが、低学年では担任制で、1 人 1 人の子どもの 4 技能の習得状況をじっくり見ながら授業を行う。高学年では、それぞれ違う指導者がスピーキング、リーディング、ライティングの授業を行う。

(3) 教材

The LAB によるオリジナル教材 (TRIPL) (The LAB Education Research Center 2006a : 2006b ; 2006c) (4.2. 参照のこと) のほか、Oxford や Richmond などの輸入教材も使用している。

(4) オンライン学習

レベル 1、2 の授業時間の前半 50 分間は、'Phonemic Awareness' の授業、レベル 3 ではフォニックス、後半 50 分間はいずれのレベルでもスピーキング主体の会話の授業が行われている。しかし、授業中の、リーディング、ライティングの時間は限られているため、自宅で毎日コンピュータを使って、

自主的に練習できるようなオンライン学習が奨励されている。

(5) ミニ・ライブラリー

Reading Den と呼ばれるスペースに、子どもたちのレベルに合わせ、絵本、童話を中心に開架式本棚が設置されている。本の表紙が見えるように置かれているため、子ども達はここで好きな本を選び、週に 1 冊借り出し、自宅で読み、簡単な感想文 (journal) を書き、担任に提出する。英語が全く書けない低学年の場合は、ハングルでも構わないが、入塾後しばらくすると 2~3 文程度の英文で感想文を書くようになる。担任は、感想文をチェックし、子どもたちに返す。本を返却すれば次の本が借りられるため、絵本に興味のある子どもの中には、週 3 回の来校毎に絵本を借りていく子もいる。自宅学習として、読書は奨励されているが、感想文については、週に 1 冊以上本を読んでも 1 つ提出すればよいことになっている。現在のところ、Reading Den には、同じ本は 1 冊ずつしか置いていないが、今後は複数部用意する予定である。

(6) 保護者会

プレゼンテーションを入れながら、1 学期に 1 回ずつ行っている。Trinity とは、「子ども、保護者、教員」の 3 者の密なる連携と協力を意味しているという。クラスでの授業以外に、本を読む、コンピュータを使うなどの自宅学習が課せられているため、保護者の協力は不可欠である。

4.1.3. 授業内容

ディレクターの Jay Kang 氏のオフィスで、上記の概要説明を受けた後、授業見学を行ったが、授業中の入室は禁止されているため、各教室のドアのガラス製小窓から観察する形となった。但し、全教室にビデオカメラが設置されており、ディレクター室の PC モニターで、各教室の授業風景をチェックできるようになっている。

授業見学時は、1～3年生対象の低学年クラスが開講されていた。6歳児中心の1番レベルの低い Level 1クラスでは、6人の子どもたちが授業を受けていた。きちんと座っていない子もあり、自宅で自由に行っているような雰囲気の中で、授業が行われていた。9月の2週目からスタートしたばかりで英語がほとんどわからない子どもも多い。子どもたちのストレスも考慮し、1学期(12週間)をかけて、英語だけでなく、勉強する態度を徐々につけさせていくという。その間に子どもたちの様子を見ながら、レベルを見極めた後、2学期に、より適切なクラスへ配置する。このクラスの担任は韓国育ちのバイリンガル韓国人の若い女性で、韓国の子どもの生活環境やしつけ、保護者の背景などを理解しているため、指導者として適任であり、保護者の信頼も厚いという。見学時には、大きな絵が描かれた画用紙をフラッシュカードとして使いながら、子どもたちが集中できるよう、大きなジェスチャーと笑顔で授業していた。

7歳児クラスでは、1人の子どもが前に出て、プレゼンテーションを行っていた。短いスピーチの後、聞いていた子どもたちが手を挙げ、スピーチをした子ども自身が指名し、質問に答えていた。子どもたちが積極的にどんどん手を挙げて質問していたのが印象的だった。

クラス内の壁には、クラスによって花びらを利用した punctuation のチャート、文法のルールの説明、ライティングの手順、word 表や、子どもたちが書いた絵と文などが貼ってある。廊下の壁にも、子どもたちが書いた絵と文がたくさん貼られてあり、暖かな手作り感があつた。

4.2. 民間英語塾の英語教材 (TRIPL)

Trinity English Academy では、The LAB の研究成果による教材 (TRIPL) を使用している。

TRIPL は5レベルで構成されている (表7)。

表7からも分かるように、TRIPL は level 14までの14冊から成っている。本論では、本研究の目的のため、音声から文字への移行段階までの TRIPL 教材 level 1, 2, 3 の教材分析を行う。対象教材は、Trinity Book 1 Phonics, Trinity Book 2 Phonics, Trinity Book 3 Reading and Writing の3冊である。

4.2.1. Trinity Book 1 Phonics

1つの文字が1音を表す子音21文字と短母音5文字で構成されている。指導内容は、以下のとおりである (表8、表9)。

4.2.2. Trinity Book 2 Phonics

1つの文字が1音を表す短母音5文字と2つの母音文字が1組になった長母音9文字で構成されている。指導内容は、以下のとおりである (表10、表11)。

4.2.3. Trinity Book 3 Reading and Writing

リーディング教材の絵本テキスト8冊のワークブックで、各ストーリーの練習問題は16ページで構成されている。指導内容は、以下のとおりである (表12、表13)。

表7 Trinity English Academy : 教材 (TRIPL)

レベル		指導内容
Starter	1-2	*Phonics *High Frequency Words
Guided	3-6	*Sentence Patterns *Cloze Sentences *Short Sentence Construction
Intermediate	7-10	*Personal Narrative *Fictions *Journals/Fables *Fantasy/Expository
Transitional	11-12	*Persuasive Writing *Editorial/Informative Writing *Descriptive Writing *Instruction Writing
Academic	13-14	*Expository Writing *Persuasive Writing *Opinion Writing *Research Report/Editorials

表8 Trinity Book 1 Phonics : 指導内容 (4 領域)

Writing	① 3線紙上のアルファベットの大文字、小文字をなぞる ② アルファベットの大文字、小文字を見ながら3線紙に正確に書く ③ 3線紙上の単語をなぞる ④ 単語を見ながら3線紙に正確に書く ⑤ 一部抜けている文字を補って単語を完成する ⑥ 絵を見てその単語が書く
Speaking	① アルファベットの大文字、小文字の名前を言う ② 単語を表す絵を見て英語で発音する
Listening	① 発音を聞いてその発音をするを知る ② 発音を聞いてその意味を知る ③ 有声音と無声音で始まる単語の違いを知る ④ 有声音と無声音で終わる単語の違いを知る
Reading	① 文字を認識する ② 単語を見てその意味を知る

表9 Trinity Book 1 Phonics : 指導内容 (授業の流れ)

頁	授業内容と流れ
P1	1つの文字が1音を表す The letter b を学ぶ ① B と b を3線紙に書く(アルファベット文字を認識する) ② 9つの絵の単語を発音する(指導者の発音を聞いてその音を発音する) ③ b で始まる絵を選択する
	Writing アルファベットの大文字、小文字を正確に書く
	Speaking boy, bus, girl, balls, cap, banana, dog, balloon を聞いて発音する
	Listening boy, bus balls, banana, balloon の絵を見て意味を理解する
P2	b で始まる5単語と絵を線で結ぶ。(5単語中4つは p. 1の既習語)
	Speaking 絵を見て単語の意味を知る Listening 単語の発音を聞いて絵と結びつける
P3	1つの文字が1音を表す The letter p を学ぶ ① P と p を3線紙に書く(アルファベット文字を認識する) ② 9つの絵の単語を発音する ③ p で始まる絵を選択する
	Writing アルファベットの大文字、小文字を正確に書く
	Speaking purse, nurse, police, newspaper, pig, pencil, nose, pin, the sun を聞いてその単語を発音する Listening purse, police, pig, pencil, pin の絵を見て意味を理解する
P4	① p. 3で既出の p で始まる単語の絵を見て発音する ② 3つの空欄に p で始まる絵を描き、発音する
	Speaking ① 絵を見て発音する ② 既出語の中から p で始まる物を探し、発音する
P5	First Sounds /p/and /b/を学ぶ ① P, p, B, b を3線紙に書く ② 豚、ボールの絵の下の3線紙に薄く書かれた文字をなぞり、pig, ball と書く ③ ②で書いた単語の最初の音の文字を選択する ◎文字→単語
	Speaking 単語を発音し、最初の音が p か b かを確認する
	Reading p と b で始まる単語を発音後、単語を見て最初の文字が p か b かを確認する
P6	First Sound /p/を学ぶ P で始まる9単語の絵の下に __ot のように3線紙に書かれており、p を書き入れ、他の文字はなぞることで単語を完成する ◎文字→単語
	Writing 下線部に p の文字を書き入れ、9単語 (pot, pig, police officer, purse, pin, pen, pencil, pie, piano) を完成する

	Speaking	絵を見て(発音しなくても)英語の単語がわかる
	Listening	絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる
	Reading	単語を書き、それを読んで意味がわかる
P7	First Sound/b/	p. 6と同じ内容
P8	First Sounds/p/and/b/を学ぶ	/p/か/b/で始まる9単語を表す各絵の下に書かれた/p/ /b/のいずれかを単語に合わせて選択する
	Speaking	piano, pig, pencil, banana, bird, pen, bag, police officer, bed の絵を見て、(発音しなくても)英語の単語がわかる
	Listening	絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる
P9	First Sounds/p/and/b/を学ぶ	/p/か/b/で始まる9単語を表す各絵の下の/ /に p か b を書き入れる
	Writing	アルファベットの小文字を書く
	Speaking	pencil, bat, bicycle, boy, bus, pie, balloon, pot, book の絵を見て(発音しなくても)英語の単語がわかる
	Listening	pencil, bat, bicycle, boy, bus, pie, balloon, pot, book の絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる
	Reading	p と b の文字を確認する
P10	Final Sounds /p/and /b/を学ぶ	① /p/か/b/で終わる6単語を表す各絵の下の単語の最後の文字を3つ選択肢の中から選ぶ ② ①で選択した単語の最後の文字を書き入れる
	Writing	jee _ のように最後の下線部分に文字を書き入れる
	Speaking	jeep, sub, map, cap, cub, soap の絵を見て、(発音しなくても)英語の単語がわかる
	Listening	jeep, sub, map, cap, cub, soap の絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる
	Reading	完成した単語を確認する
P11	Final Sounds /p/and /b/	P10と同じ内容
P12	Final Sounds /p/and /b/を学ぶ	3枚の絵の中で最後の音が同じ2枚の絵を選択する
	Speaking	(cab, sub, map) (soap, bib, cup) (jeep, tub, top) (mop, web, cub)の3枚一組の絵を見て、(発音しなくても)それぞれの英語の単語がわかる
	Listening	(cab, sub, map) (soap, bib, cup) (jeep, tub, top) (mop, web, cub)の絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる
P13	Final Sounds /p/and /b/を学ぶ	/p/か /b/で終わる9単語の各絵の下に書かれた単語の最後の文字を書き入れる
	Writing	mo _ のように、最後の下線部分に文字を書き入れる (top, web, mop, cub, cup, cap, jeep, sub, cab)
	Speaking	絵を見て(発音しなくても)英語の単語がわかる
	Listening	絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる
	Reading	完成した単語を確認する
P14	Final Sounds /p/and /b/を学ぶ	① /p/か /b/で終わる6単語を、/b/で終わるものは右側に、/p/で終わるものは左側に分類し、それぞれの単語を書く ② p か b で終わる単語を表す絵の下にその単語を書く
	Writing	cab, web, map, cab, soap, tub を書く

4.3. 市販の英語教材

TRIPL1-3の内容に類する市販教材として、本論では、JP Phonics Kids 1 ‘The Alphabet’ (Lin and Hsieh, 2004a), JP Phonics Kids 2 ‘The Consonants’ (Lin and Hsieh, 2004b), JP Phonics Kids 3 ‘The Short Vowels’ (Lin and Hsieh, 2004c)を紹介

する。本教材は、EFL の子どもたちを対象とした自宅学習用教材であり、フォニックスの基本を導入している (CD 付、3冊1セット)。

4.3.1. JP Phonics Kids 1 ‘The Alphabet’

26文字の大文字と小文字 (Aa から Zz) をアルフ

表10 Trinity Book 2 Phonics : 指導内容 (4 領域)

Writing	① アルファベットの大きい文字、小さい文字を見ながら3線紙に正確に書く ② 単語を見ながら3線紙に正確に書く ③ 一部抜けている文字を補って単語を完成する ④ 絵を見て、その単語を書く ⑤ 抜けている単語を書き入れて、絵が表す1文を完成する
Speaking	単語を表す絵を見て英語で発音する
Listening Reading	発音を聞いてその意味を知る ① 単語を見てその意味を知る ② 絵を見て、それを説明する単語と1文で書かれた英文を理解する

表11 Trinity Book 2 Phonics : 指導内容 (授業の流れ)

頁	授業内容と流れ	
P1	1つの文字が1音を表す、短母音(5文字)を学ぶ ① A と a を3線紙に書く ② 9つの絵の単語を発音する ③ 短母音の a で始まる絵を選択する	
	Writing	アルファベットの大きい文字、小さい文字を正確に書く
	Speaking	fan, boy, hat, cup, man, pen, fat, bat, pig の絵を見て発音する
P2	短母音 a を含む6単語の絵の隣の下線部に文字を書き入れ、単語を完成する (6単語中2つが p.1の既習語。新出4語のうち2つは形容詞)	
	Writing	b _ t → _ _ t のように、絵を表す単語の1カ所、次に2カ所文字が抜けて書かれている部分に短母音 a または既出のアルファベット文字を書き入れる
	Speaking Reading	① 絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語(bat, fat, can, van, mad, sad)がわかる ② 完成した単語を確認する
P3	短母音5単語とそれを表す各絵を線で結ぶ	
	Speaking Reading	① 絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語(mad, cat, sad, van, fan)がわかる ② 単語を見てそれを意味する物がわかる
P4	① 短母音 a が入った6単語を表す絵の下に文字を入れ、単語を完成する ② 空所補充で単語を完成させた後、もう一度、単語を書く	
	Writing	h _ のように、絵を表す単語の2カ所文字が抜けて書かれている部分に短母音 a と既出のアルファベット文字を書き入れる
	Reading	ham, jam, cap, nap, leg, rax
P5	3枚の絵の中から韻を踏んでいる短母音を含んだ単語を表す絵2枚を選択する	
	Speaking	絵を見て(発音を聞かなくても)英語の単語がわかる 1. fan, can, rat 2. sad, bus, mad 3. bat, fat, fan 4. ram, nap, map 5. can, ram, jam
P6	6つの絵の隣にその絵を説明する英文が書かれており、8つの選択肢の中から適切な単語を選び、下線部に書き入れ、文を完成させる ◎単語→文	
	Writing	太った猫の絵の隣に This is a _____. のように下線を含む文が書かれており、選択肢(dad, cat, hat, van, can, fat, bat, mad)から1単語を選び、書き入れる
	Reading	① 絵を見てそれを説明する単語と英文を理解する ② 完成した文を確認する

アルファベット順に各ユニットで1つずつ学ぶ。また、それぞれのアルファベットで始まる基本単語を2つずつ、全部で52の基本単語を紹介している。各ユニットは、「文字をなぞる」「一緒にチャンツ」「塗り絵」

「文字認識」の4構成になっている(表14)。

4.3.2. JP Phonics Kids 2 'The Consonants'

アルファベット26文字のそれぞれの形を認識でき

表12 Trinity Book 3 Reading and Writing：指導内容（2領域）

Writing	① ストーリーに出てきた使用頻度の高い5単語を3線紙上でなぞる ② 単語を見ながら3線紙に正確に書く ③ 絵を見て、その単語を書く ④ 抜けている単語を書き入れて、絵が表す1文を完成する ⑤ 抜けている単語を書き入れて、1文を完成する ⑥ 書く時のルール(句読点、短縮形、文型など)を学ぶ ⑦ 書く時にルールを間違いないく使う ⑧ 例文を参考に、1文を書く
Reading	① 単語を見てその意味を知る ② 1文で書かれた英文を理解する ③ 疑問文の質問内容を理解する ④ 例文を読み、応用するときの基本を理解する

表13 Trinity Book 3 Reading and Writing：指導内容（授業の流れ）

頁	授業内容と流れ	
P1	Write the High-Frequency Words 3線紙に書かれた使用頻度の高い5単語を1度なぞったあと、5回ずつ書く	
	Writing	going, to, be, a, up を、1度なぞったあと、5回ずつ書く
	Reading	単語を読む
P2	Write the Key Words 3線紙に書かれた5単語を1度なぞったあと、5回ずつ書く	
	Writing	pilot, doctor, teacher, truck driver, TV star を1度なぞったあと、5回ずつ書く
	Reading	単語を読む
P3	Word Match P2の既出5単語とそれを表す絵を線で結ぶ	
	Writing	doctor, pilot, teacher, TV star, truck driver
	Reading	単語を読み、それに合った絵を選ぶ
P4	Picture Talk ストーリーの絵に関する質問文を読み、各場面でそれぞれの人物が行った動作の答えとなる文を選ぶ ◎文型 What is～doing?	
	Writing	going, to, be, a, up を1度なぞったあと、5回ずつ書く
	Reading	What is the boy on page 2 doing? 等の文を読み、He is running to school. または、He is flying a paper airplane. の文を選ぶ
P5	High-Frequency Word Practice 5つの選択肢の中から適切な単語を選び、下線部に書き入れ、文を完成する ◎文型 I'm going to be a _____.	
	Writing	P1、P2の既習5単語(going, to, be, up, a)を選択し、文を完成する
	Reading	① 空所のある5文を読む ② 選択肢の単語を読む
P6	Key Words Practice 選択肢の中から適切な単語を選び、職業を表す5つの絵の下の3線紙に書き入れる ◎職業の単語を書く練習をする	
	Writing	職業を表す既習5単語(doctor, pilot, truck driver, TV star, teacher)を各絵の下に書く
	Reading	① 絵を見て英語の単語がわかる ② 選択肢の既習5単語を読んで理解する
P7	Crossword Puzzle クロスワード パズルを完成する	
	Writing	職業を表す既習5単語を表す絵をヒントに、クロスワードパズルの適切な位置に単語を書き入れる
P8	Comprehension Check ① 既習語が入った各文の内容が正しいかどうかを確認する	

	② 質問文を読み、I'm _____ . と書かれた3線紙に答えを書き入れる
Writing	質問文の答えを、I'm _____ . に書き入れる
Reading	① A boy is going to be a teacher. などの既習語、既習文型から成る文を読み、True/False のいずれかに○をつける ② What is "I" on page 10 going to be? という質問文を読み、内容理解をする
P9	'Contraction I'm' ① 短縮形 I'm の説明を理解する ② 短縮形の正しい形を認識する練習問題をする ③ 短縮形を書き入れる練習問題をする
Writing	下線部に短縮形を書き入れて、完全な文にする
Reading	① 短縮形の作り方の説明を読んで理解する ② I'm a girl. 等、4文の中から正しい省略形の文を選択する
P10	'Contraction I'm' ① 短縮形の正しい形を確認する練習問題をする ② 正しい短縮形を入れて文を書く練習問題をする
Writing	短縮形部分に間違いのある5文のそれぞれの間違いを探し、3線紙に正しく書き直す
Reading	Im' going to do my homework. 等、間違った短縮形を探す
P11	Sentences with 'Contraction I'm' 例文が3線紙に書かれており、I'm で始まる文を3つ書く練習問題をする ◎単語→文
Writing	I'm で始まる文を3つ書き、文の最後に period をつける
Reading	例文 (I'm going to be a teacher when I grow up.) を読む
P12	Mind Map 小学校の前で女の子が将来何になろうか考えている絵から文を考える
Writing	① I'm going to be a _____ when I grow up. という文の下線部に自分の答えを書き入れる ② 女の子の絵から出ている4つの吹き出しに、将来なりたい職業を書く
Reading	I'm going to be a _____ when I grow up. の文を読む
P13	My Writing ① P12で考えた将来なりたい職業を4つ、3線紙に書く。 ② 1番目には、空欄が入った文が書かれている。残りの3文は、それぞれの3線紙に全文を書く
Writing	① I'm going to be a _____ when I grow up. の下線部に自分の答えを書き入れる ② ①の下線部に他の職業を書き入れる
Reading	① I'm going to be a _____ when I grow up. の文を読む ② 書き入れた文を読む

子どもたちの次のステップとして、21の子音を紹介している。全部で21ユニット、各ユニットでそれぞれ1つずつ子音を学ぶ。各ユニットは、「指しながら言いましょう」「一緒にチャンツ」「塗り絵」の3構成になっている。指導内容は、以下のとおりである(表15)。

4.3.3. JP Phonics Kids 3 'The Short Vowels'

基本的な5つの短母音(a, e, i, o, u)を紹介し、フォニックスに移行する準備段階の練習を組み込んでいる。全部で5つのユニット、各ユニットでそれぞれ1つずつ短母音を学ぶ。各ユニットは、A, B, C, Dから成っており、Aは「指しながら言いましょう」「なぞるのはおもしろい」「一緒にチャンツ」

の3構成、Bは'Pair Sounds Practice'で、それぞれの短母音について3つずつpair soundsが紹介されている。Book 2で学んだ子音との関連性からフォニックスの導入練習をする。「一緒にチャンツ」では、CDを聞き一緒に発音することで、前ページで練習した単語が入ったチャンツを利用して短母音の集中練習をする。指導内容は以下のとおりである(表16)。

4.4. 考察

TRIPL 1, 2, 3は、民間英語塾のオリジナル教材であり、JP Phonics Kids 1, 2, 3は韓国で入手できる台湾製の市販教材である。教材としての両者の違いは、Trinity English Academyでは、コンピ

表14 JP Phonics Kids 1 'The Alphabet' : 指導内容 (4 領域)

Writing	アルファベットの大文字、小文字を CD に合わせ、'one, two, three' と言いながら、大きく書かれた A と a の文字を指でなぞる
Speaking	① アルファベットの 大文字、小文字の名前を言う ② 単語を表す絵を見て英語で発音する ③ CD「一緒にチャンツ」を聞きながら、チャンツを歌う (例) Aa is for alligator, /ei/ /ei/ /ei/, Aa is for apple, /ei/ /ei/ /ei/.
Reading	① 発音を聞いて、その発音をする ② 発音を聞いてその意味を知る ③ CD で指示を聞き、アルファベットを指でなぞる ④ CD で指示を聞き、チャンツを CD に合わせて一緒に歌う ⑤ CD で指示されたアルファベット文字を探して色を塗る
Writing	① アルファベットの 大文字、小文字を認識する ② 絵の横に書いてある単語を見てその意味を知る ③ 書かれているチャンツを見ながら歌う

表15 JP Phonics Kids 2 'The Consonants' : 指導内容 (4 領域)

Writing	① アルファベットの 大文字と子文字を点線に沿って書く ② アルファベットの 大文字、小文字を正確に書くために必要な、縦線、横線、直角、楕円、カーブなどを点線に沿って描く
Listening	① アルファベットの 大文字、小文字の名前を言う ② 単語を表す絵を見て英語で発音する ③ CD の指示を聞きながら、(例) /b/ /b/ /bear/, /b/ /b/ /bird/, /b/ /b/ /bus/, /b/ /b/ /boat/ と指で押さえる ④ 上記チャンツを一緒に発音する ⑤ CD「一緒にチャンツ」を聞きながら、チャンツを歌う (例) Blue Bird, Blue Bird. What do you say? I say Bb b. Blue, Blue Bird!
Listening	① 発音を聞いて、その発音をする ② 発音を聞いてその意味を知る ③ CD で指示を聞き、アルファベットを指でなぞる ④ CD で指示を聞き、チャンツを CD に合わせて一緒に歌う
Reading	① アルファベットの 大文字、小文字を認識する ② 絵の横に書いてある単語を見てその意味を知る ③ 書かれているチャンツを見ながら歌う

ュータを利用した自宅学習においても音声指導ができるようなカリキュラムとなつてはいるが、基本的に、TRIPL 1, 2, 3は授業中に使う教材であるため、白黒印刷で CD は付いていない。一方、自習教材である JP Phonics Kids は、カラフルなカラー印刷で CD も付いている。しかし、次のような共通点も見られる。

- (1) アルファベット文字を見て発音する、正確に大文字、小文字を書く、アルファベットには文字と音があることを知る、絵を使って単語の意味を理解する、音を聞いて言うなどの指導内容が中心である。

- (2) 認識・識別だけでなく、音読練習を通して音素と単語の関係を自然に学べるように工夫されている。
- (3) 子どもたちが楽しんで学べるように、視覚的には絵の利用、音声的にはチャンツの利用、ゲーム的要素としてマッチングやクロスワードの利用などの工夫が見られる。

例えば、TRIPL 1, 2 で 'Phonemic Awareness' を十分練習した後、TRIPL 3では、リスニング、スピーキング練習はなく、単語から文字、文字から文への移行練習を中心に作られている。子どもたちが楽しみながら学べるように、ここでも絵や、クロ

表16 JP Phonics Kids 3 'The Short Vowels': 指導内容 (4 領域)

Writing	<ul style="list-style-type: none"> ① アルファベットの大文字と小文字を点線に沿って書く ② アルファベットの大文字、小文字を正確に書くために必要な、右斜線や左斜線、丸などを点線に沿って描く
Speaking	<ul style="list-style-type: none"> ① アルファベットの大文字、小文字の名前が言う ② 単語を表す絵を見て英語で発音できる ③ CDの指示を聞きながら、(例) /a/ /a/ /alligator/, /a/ /a/ /apple/, /a/ /a/ /ax/, /a/ /a/ /ant/と指で押さえる ④ 上記チャンツを一緒に発音する ⑤ CD「一緒にチャンツ」を聞きながら、チャンツを歌う (例) Amy likes apples. Apple, apple, apple. Aa says a, a. Apple, apple, apple. <p>a と m → am と書かれており、CDを聞き、一緒に発音するようになっている</p>
Listening	<ul style="list-style-type: none"> ① 発音を聞いて、その発音をする ② 発音を聞いてその意味を知る ③ CDで指示を聞き、アルファベットを指でなぞる ④ CDで指示を聞き、チャンツをCDに合わせて一緒に歌う
Reading	<ul style="list-style-type: none"> ① アルファベットの大文字、小文字の認識ができる ② 絵の横に書いてある単語を見てその意味を知る ③ 書かれているチャンツを見ながら歌う

スワード・パズルを利用して単語を書く練習ができるよう工夫されている。また、使用頻度の高い単語を何度も違うアクティビティで使用し、自然に書くことができるようになっている。新語を1つ、2つ程度、既習語の中に入れて、子どもたちの負担感がないような工夫も注目すべき点である。

5. まとめ

日本において、現行の小学校英語活動は、文字と切り離れた形による音声中心の指導が基本となっている。しかし、英語の「習得」と「定着」を目指し、4技能（スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング）育成に発展させるためには、小学校において適切な内容と方法で文字指導も行うことが不可欠であろう。筆者はこのような考えのもと、「リーディングによる読解力重視のカリキュラムは、音声重視のみよりも英語保持能力を高め、長期的展望に基づく英語教育の重要な基礎となる」という仮説を立て、小学校英語カリキュラム開発研究を続けているが、韓国の初等英語では、音声や、文字の扱いはどのようになっているのだろうか。以下に、韓国の教育部（1997年当時）による初・中等学校教育課程（国民共通基本課程）の記述の日本語訳（河合，2004：14）を引用する（太字は筆者による）。

英語は国際的に一番広く使用されている言語である。したがって世界の流れに伴い国家と社会の発展に寄与し、世界人として質の高い文化生活を行うためには英語での意思疎通が必要である。

初等学校の英語は、児童が日常生活で使用する基礎的な英語を理解して表現する能力を養う教科として、意思疎通の土台になる言語技能教育、とりわけ音声言語教育が主になる。文字言語教育は、平易で簡単な内容の文を読み、書ける内容に限定するが、音声言語と連携し、その内容を構成する。中学校の英語は、初等学校で習得した英語を土台にして、生徒が現代日常英語を理解し、これを使用出来る能力を養うことで、国際社会と外国の文化を理解するだけでなく、我が文化を発展させ、国力伸張に寄与できる言語的土台を築くことに力点を置く……。

このように、韓国の教育課程では、音声と文字の扱いについて「連携」という概念がうたわれている。これは、日本の英語活動とは大きな違いである。

韓国の初等学校では、文字学習が入ってくるのは5年生からだが、音と文字の関連を教えるフォニックス法を取り入れ、自分の力で単語や文を「読む、書く」ための基礎を養っている（伊東，2002a）。

今後、2008年から初等英語が1年生に導入されるようになった場合、このような指導内容や方法がどのようになるのか、それを占う意味においても、民間の英語教育の在り方が注目される。

今回視察調査を行った韓国の民間英語塾の実践においては、低学年において音声重視の指導を行いながら、音声のみにとどまらず、リーディング、ライティングに移行するための‘Phonemic Awareness’を取り入れたカリキュラムが採用されている。英語習得には音声だけでなく、読み・書き能力育成への移行、そして、ライティング活動において、自分の考えをきちんと表現することが必要であるとの考えがうかがわれる。例えば、Trinity English Academyのレベル7(14段階中)のライティング教材を見てみると、それぞれの課題は、指導を受けながら5回書き直すことによって完成原稿に仕上げるといふ活動になっている。

今回の視察を通して、公立校の実践の先を行く韓国の民間英語プログラムにおいて、‘Phonemic Awareness’を核にした音声重視の指導から、音素→文字→単語→文への段階的・発展的な指導は、日本の小学校英語のカリキュラム開発研究にとって大いに参考になるとと思われる。今後、韓国の公立校の初等英語教育の動向にも注目しながら、前述の仮説の検証を行っていく予定である。

注釈

注1) 英語力の比較において、Kwon et. al. (2006) はスコア結果の分析、解釈にあたり、2003年と2004年に用いたGTECの難易度を比較し、違いがないことを検証している。また、GTECがItem Response Theoryを適用したテストである点も言及している。さらに、2003年の10年生と11年生の間に学習能力の差がないだけでなく、むしろ10年生達が能力の高いグループであった点も検証している。

注2) E* PUBLIC Company : www.panmun.co.kr

注3) Trinity English Academy : www.trinityenglish.co.kr

参考・引用文献

浅岡千利世・伊東弥香(2006)。「韓国の教員養成」、大学英語教育学会(JACET)教育問題研究会(代表・神保尚武)『英語科教職課程における英語教授力の養成に関する実証的研究』(平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(1)研究成果報告書研究課題番号16520356), pp.79-95.

Chun, Y-h. (2000). "A Sketch of the EFL Curriculum in Elementary School in Korea & Teachers Training for English Teaching in Seoul." Paper presented at the 4th Korea-Japan Joint Workshop of English Teachers at MPI Seoul Seminar 2000 organized by MPI and SESETA, November 24, 2000, Seoul, Korea, pp.23-29.

伊東弥香(2002a)。「小学校英語が日本の子どもを元気にする」(東京:松香フォニックス研究所)

_____ (2002b)。「日本の小学校英語教育の方向性について—アジアにおける国際コミュニケーションの言語としての英語の視点からの一考察—」、『アジア英語研究 第4号』, 日本「アジア英語」学会(JAF AE), pp.63-84.

_____ (2002c)。「韓国と台湾に学ぶ一貫性英語教育—日本における新しい英語観の確立—」、『東海大学外国語教育センター所報 第22輯』, 東海大学, pp.75-83.

河合忠仁(2004)。「第1章韓国 III教科書・教材」, 大谷泰照・林桂子・相川真佐夫・東眞須美・沖原勝昭・河合忠仁・竹内慶子・武久文代(編著)『世界の外国語教育政策—日本の外国語教育の再構築に向けて』, pp.13-26, (東京:東信堂)

金澤延美・伊東弥香(2006)。「一貫性教育に位置づけるための小学校英語:英語習得と保持能力向上の調査研究」, (平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書 研究課題番号16520368/代表・駒沢女子短期大学 金澤延美)

木村裕三(2001a)。「韓国の初等学校における英語教育実施5年目の現状とわが国への示唆①」『英語教育』4月号(東京:大修館書店) pp.50-52.

_____ (2001b)。「韓国の初等学校における英語教育実施5年目の現状とわが国への示唆②」『英語教育』5月号(東京:大修館書店) pp.50-52.

_____ (2001c)。「韓国の初等学校におけ

- る英語教育実施5年目の現状とわが国への示唆
③』『英語教育』6月号(東京:大修館書店)
pp.50-52.
- Kwon, Oryang (1997). "English Teaching in Korea: Focusing on Teacher Training and Retraining." Manuscript for the MPI & SESETA Joint Workshop, Seoul, November 22, 1997.
- _____ (1998). "English Education in Korea: It's Innovations and Renovations." Manuscript for the MPI Special Lectures, Tokyo & Osaka, May 9-10, 1998.
- _____ (2001). "Teaching English as a Global Language in the Asian Context." Paper presented at the KATE 2001 International Conference at Ewha Woman's University, June 29-30, 2001.
- Kwon, Oryang, Kyung-Soon Boo, Dongil Shin, Jin Kyong Lee and Seok Boon Hyoun (2006). "High School Students' English Abilities in East Asia and the Effect of Elementary School English Education in Korea. Paper presented at the 4th Asia TEFL Conference, Fukuoka, at Seinan Gakuin University, August 18-20, 2006.
- Lin, Su-o and Jing-hui Hsieh (2004a) JY Phonics Kids 1 The Alphabet. Taiwan: JY books.
- _____ (2004b) JY Phonics Kids 2 The Consonant. Taiwan: JY books.
- _____ (2004c) JY Phonics Kids 3 The Short Vowels. Taiwan: JY books.
- 文部科学省 (2001). 「小学校英語活動実践の手引き」(東京:開隆堂)
- 斎藤里美(編著・監訳) (2003). 「韓国の教科書を読む」(東京:明石書店)
- THE LAB Education Research Center (2006a). Trinity TRIPLE 1 Book. Phonics. (Seoul: TRINITY English Academy)
- _____ (2006b). Trinity TRIPLE 2 Book Phonics. (Seoul: TRINITY English Academy)
- _____ (2006c). Trinity TRIPLE 3 Book Reading and Writing. (Seoul: TRINITY English Academy)